

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	313質の高い既成市街地の整備		
施策のねらい (めざす姿)	賑わいと魅力あふれる中心市街地が形成されています。 自然と調和した質の高い居住環境が整備されています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	マネージャー氏名	鎗田 淳

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備方針について策定中の地区において、地域住民との協働により策定し事業を進める。	③改革・改善内容	東武鎌ヶ谷駅西口地区においては、施設整備が完了した中で、地域活性化に向けた検討を行う。初富駅、北初富駅地区の整備については、新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら、関係機関との協議を進め、整備方針を決定する。
②①に基づく取り組み結果	東武鎌ヶ谷駅西口地区における駅前広場の整備、コミュニティ道路、ポケットパークの整備が完了した。また、初富駅、北初富駅における概略設計委託が完了した。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	都市軸(新鎌ヶ谷駅周辺、初富駅周辺、東武鎌ヶ谷駅西口周辺) 近隣商業拠点(北初富駅周辺、鎌ヶ谷大仏駅周辺、くぬぎ山駅周辺)	意図(対象をどうするのか)	都市基盤が整備され、身近な近隣商業・業務施設が集積する事により、賑わいの創出や利便性及び良好な住環境が確保される。
②施策の概要	都市軸である東武鎌ヶ谷駅西口周辺地区及び初富駅周辺地区においては、都市基盤整備の必要性を明らかにし、計画的な市街地の形成を図る。近隣商業拠点である北初富駅周辺地区では、市民の日常生活に身近な商業等のサービス機能の充実を目指し、駅前広場等の整備に向け事業を推進している。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設整備が完了した東武鎌ヶ谷駅西口地区は、今後、地域における活性化を推進する必要があるが、地元関係者が高齢化し、次世代の担い手も不足している状況である。初富駅、北初富駅地区は、新京成線連続立体交差事業に合わせた整備を行うため、連立事業の進捗状況を見据えながら整備を促進する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25～26年度の施策の成果	東武鎌ヶ谷駅西口地区では、駅前広場、電線類の地中化、コミュニティ道路の整備が完了した。初富駅、北初富駅地区では、駅前整備における概略設計委託が完了した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値(27年度)
	i	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	—	52.2	—	50.0
	ii	既成市街地整備事業着手地区数	地区	2	2	2	1
	iii						
③基本事業成果指標	i	都市軸形成促進事業整備箇所数	箇所	2	2	2	1
	ii	近隣商業拠点整備事業整備箇所数	箇所	0	0	0	0
	iii	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	—	52.2	—	50.0
	iv						
	v						
	vi						
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	平成25年度決算	平成26年度決算	市民一人あたり事業費(26年度決算)		平成27年度予算		
事業費(千円)	106,581	127,668	(単位:円) 1,175 円		36,196		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後、事業の中心となる初富駅、北初富駅地区における整備に向け、新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら、関係機関との協議を進め整備方針を決定する必要がある。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	初富駅、北初富駅地区で実施した概略設計に基づく関係機関との協議に時間を要している状況があるものの、東武鎌ヶ谷駅西口地区の整備を計画通り完了することが出来た。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑向上	②コストの方向性	↑増加
③特に重点化する事務事業	都市軸形成促進事業		
④上記方向性の説明	各駅周辺整備は、引き続き関係機関と協議を進め、新京成線連続立体交差事業に併せた整備が必要と考える。		